とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立富士見保育園
施設所在地	東京都調布市富士見町2-3-26

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

色の変化

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心，園の特色など）

夏季の水遊び活動で、色水遊びを楽しむ姿があった。遊びの中では、好きな色を作る楽しさや色の変化に驚く姿などが見られたため、色の種類を増やしたり、素材を変えたりすると、さらに色の変化への関心を持てることに繋がると考え、このテーマを設定することにした。

２．活動した時期

令和7年9月、令和8年1月

３．活動のために準備した素材や道具，環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか，準備した素材や道具）

・一人一つの皿・濡れた布巾（各テーブルに一つずつ）・筆・絵の具を入れるスプーン・絵の具を入れる皿

・絵の具

1回目：赤、黄、青、緑、ピンク、紫、黒、白

2回目：赤、黄、青、白

・描くもの

1回目：模造紙

2回目：八切り白画用紙

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

9/29 1回目

・3歳児クラスで行ったため、活動内容を自分たちで考えながら進めていくことは難しいと考え、簡単な色遊びを楽しむ上での約束事を子どもたちに伝えてから活動を始めた。

・「好きな色を作ってみる」といったテーマで活動を進めて、テーブルに8種類の絵の具を並べて、それぞれが好きな色を自由に選んだ。色作りの後は、その色を使って模造紙に好きな絵を描いて楽しんだ。

1/13 2回目

・活動のテーマを絵本の「まほうのえのぐ」ごっこに設定し、色遊びを楽しんだ。絵本の読み聞かせを導入し、絵の具で何して遊ぶのかを子どもたちそれぞれに感じ取ってもらえるきっかけを作るように設定した。活動中、何をするかの手順の説明は控えて、「好きな色が作れたら、画用紙に描く」の指示のみで活動を進めた。自由度が高い活動であったため、積極的な子は活動の最後まで楽しむ様子が見られた。

＜活動中の子供の姿・声，子供同士や保育者との関わり＞

子どもたちは、色を混ぜることで起こる変化に興味をもち、「〇と〇を混ぜたんだよ」と、作った色を嬉しそうに保育者や友だちに伝える姿が見られた。また、友だちの色を見て関心を持ち、同じように色を作ろうとする様子も見られた。活動の流れを理解し、安心して参加しながら、意欲的に色遊びを楽しんでいた。

作りたい色をイメージしながら絵の具を自分で選んでいました！

全部混ぜ合わせる子や描きたいものをイメージしながら色を数種類作る子がいたりと、子どもたちで考えながら進めていく姿が見られました。

自分の好きなものをたくさん描いて楽しむ子や塗りつぶすことに集中する子、花火やイチゴの木などの数種類の色を使い分けて作っていく子がいたりと、子どもそれぞれ色遊びを楽しんでいました。

５．振り返り

＜振り返りによって得た保育者の気づき＞

・色遊びを通して、子どもたちは主体的に試しながら、色の変化に気づき、伝え合う楽しさを感じていた。

・今後は、自然物や身近な素材を取り入れた色遊びや製作活動を取り入れ、伸び伸びと表現できる機会を増やし、それぞれの活動意欲や表現力を伸ばしていきたい。

・1回目と2回目で行う時期を変えたことで、子どもたちの自己発信や考えなどの伝え方に変化があった。遊びの活動内容の自由度を高くすると、消極的な子は不安な表情を浮かべつつも、積極的に楽しむ子の姿を見ながら、何をすべきかを子どもたちだけで考えて遊ぶ姿があった。今後もこういった自由度のある活動を取り入れ、子ども同士で遊びの幅を広げる機会を設ける工夫をしていきたい。

【4歳児クラス】

とうきょうすくわくプログラム

調布市立富士見保育園
調布市富士見町
2-3-26

1．活動テーマ

【テーマ】

感触あそび

【テーマ設定の理由】

色水実験を行った際に，様々な変化を楽しみ，熱中する姿が見られたため，実験をしながら学びに繋がる活動を行うこととした。
また，高野豆腐や春雨は給食でも提供させる食材であり，子どもたちにとっては身近なもののため，感触等の変化だけでなく，食への興味関心も深めるために二つの食材を活用することとした。

2．活動した時期

令和７年7月，９月の計２回

3．活動のために準備した素材や道具

＜共通＞
- 一人ひとつのトレイ
- 水が入った容器
- 色水用スポイト

＜高野豆腐＞
- サイコロ状の高野豆腐
- 3原色の色水

＜春雨＞
- 産地の異なる春雨２種
  （中国産…①乾燥状態のまま１日水につけたもの
  ②茹でたものを黄色の色水に１日つけたもの
  ③茹でたものを赤色の色水に1日つけたもの
  国産…茹でたものと乾燥した春雨
- トング

4．探求活動の実施　①高野豆腐で大実験

水を吸ったらちぎれた！
ぎゅーってすると
お水でてくる！

「かんしょくってなぁに？」「こうやどうふってなぁに？」から始まった子どもたち。触って大実験を楽しめるとわかると目を輝かせていました。また，給食の「高野豆腐のオランダ煮」で使われているものだとわかると，食いしん坊スイッチON。「たべられるの？，なんかおなかすいてきた」と話す子どもたちでした。
でも，料理される前の高野豆腐はカチコチ。音を聞と「えぇ！？」とナイスリアクション！それからは匂いを嗅いだり水につけてみたり，握ったりちぎったりと楽しみ方は様々！
水に浸している間に，「このあいだに…」と言って他の高野豆腐には色水で模様をつけたりと，効率よく実験を楽しむ子もいました。初めての感触遊びでしたが，思いきり楽しめたようで，30分以上熱中していた子どもたち。遊び終わると「かんしょくあそびたのしかったなー！せんせいまたやりたい！」とキラキラ笑顔で何度も伝えてくれました。

みてー！水に入れたら膨らんだー！

スポイトで色水を少しずつ垂らし，高野豆腐に模様をつけるAちゃん。
３０分以上育てていました。

②春雨でも大実験

食べる前の春雨は？

なんかチクチクする!!!

ひっぱってもちぎれなーい！

楽しみで仕方がなかった子どもたちのために，一週間の予定ボードに飾っていた春雨。ずっと気になっていた子どもたちですが，いよいよ開封してみることに！初めて触るカチカチの春雨に恐る恐るの子もいましたが，「なんかチクチク！，トゲトゲしてる！パリパリしてる！」と話す子や，食べる時はツルツルしている春雨も，乾燥状態で引っ張ってみると…全然ちぎれないことに気がつく子など様々な発見を楽しんでいました。(一本の春雨をまさか全力で引っ張る子がいるとは思ってもいなかったので，子どもたちのひらめきにびっくりな先生たちでした。)「ここにみずをかけるといいのかなぁ？」と話す子も多く，次の日に水につけてみることになりました！ さぁどうなるかな？

5．振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

・自分の手で変化させることができる素材を用いたことで，子どもの想像力や探求心が広がる様子が伺えた。また，活動内容に限界も正解もないことで，発達段階に関係なく，生き生きとした表情で全員が楽しむ姿がみられた。

・保育者が提示する活動が多い中で，「自分がどうしたいか」が主となり，自分のアイデアや気づきを試せるような活動を行うことで，自己を発揮しながら満足感や達成感を感じることができるため，今後もこうした自由な楽しみ方ができる活動を定期的に行い，子どもたちの気づきやアイデア，自信に繋げていきたい。

【5歳児クラス】

とうきょうすくわくプログラム

調布市立富士見保育園

1. 活動テーマ

【テーマ】

植物と遊び

【テーマ設定の理由】

昨年度の年長児が育てていた，チューリップの球根，ひまわりの種，朝顔の種を譲り受け，進級した機会に子どもたちと相談しクラスで育てることにした。土と肥料の混ぜ合わせや，耕して一人ずつ種まきをしてグループ毎で水やり当番として生長の見守りを続けた。芽が出始め変化が出てくると一層お世話する意欲が高くなっていった。変化に気付くと友達に知らせてクラス全体で関わり１年を通して生長以外にも遊びに取り入れられる素材だったので植物と遊びのテーマにした。

2. 活動した時期

令和７年４月から令和８年２月（通年）

3. 活動のために準備した素材や道具

～子どもたちと花を育てるかどうか話し合いをして決めてから，取り組んだ。プランターはクラス前に設置しいつでも観察や水やりがしやすいようにした～

・子どもたちが花の名前を書いたミニ看板（アイスの棒）

・土・プランター・ペットボトルのジョーロ・支柱・収穫した種を入れる小瓶・どんぐり・布・装飾用の布や玉・ボンド・ビニール袋

4.　探究活動の実施

育てた花をもんで色味が変わるのか真剣！少しの変化も逃さない！！

朝顔の蔓でリース作り。どんな飾りにしようか相談しながら個性的な作品が仕上がりました！

～活動内容～芽が出始めた時は雑草の新芽の違いを注意深く観察して見分けながら雑草抜きをしながら水やりを子どもたちが担った。当番活動に組み込んだので，生長に気付き喜びをクラス全体で共有しながら生長を楽しんだ。花が咲いた時には色の違いに気づくなど子どもたちの発見が続き，描画活動に展開した。クラスに置いてある図鑑だけではなく図書館に出向いた時に朝顔に特化した図鑑を借りる子もおり，朝顔の知識を深めていった。種の収穫，蔓のリース作り（4 個）はグループ毎で取り組み，クリスマス会まで飾り楽しんだ。収穫した種は来年度の新 5 歳児にプレゼントするか，各自がもらうのかは子どもたちと相談して決めていく。

5.　振り返りによって得た保育者の気づき

花を使った色水遊びを，初めて経験する子が多く楽しんで取り組めた。色水作りのために花をもみこむことを実際にやってみると力加減が出来ず袋が破れて水がこぼれ出る経験をした子もいた。次はどの位の力加減だといいのか調整しながら，色の予測から水の量と花の枚数を変えながら，他児の色を見比べて探求し繰り返し挑戦して友達と様子を伝えあって楽しめた。春から夏にかけては種まきや朝顔の生長を楽しみ，夏から秋にかけて花を使った色水遊び，秋から冬にかけて種の収穫と蔓を使ったリース作りを行い 1 年通して子どもたちと楽しむことができた。身近な素材や，育てやすい花を使って無理なく生活の一部に取り入れて一緒に楽しむことができたので，玩具とは違う自然ならではの偶然の面白さと発見があった。